



ラフカディオ・ハーン先生の碑

熊本大学内の小道をゆく。県道337号沿い熊本大学のランドマークの赤門から入り、サインカーブ路を五高記念館へとつづら歩く。やがて、2つ目の門、白い中門が見える。その左手に石づくりの碑が立っている。明治24年松江中学校より着任した外国人教師ラフカディオ・ハーンの碑である。先生の授業は英語会話を重視し、学生達への指導も熱意があり、添削もとても丁寧であったと聞く。そして「日本」への関心と深い造詣が、数多くの文学作品を生み出す。ギリシャに生まれ、イギリス、フランス、アメリカ、フランス領西インド諸島…と巡り、日本へたどり着いた。大変苦しい移民暮らし、巡り生きてきた彼は、世界の果ての極東のこの熊本で何を感じ見出したのだろうか。レリーフ像の前に立ち、彼が教鞭を取った五高を眺め思索する。

碑には明治27年1月に全生徒への講話「極東の将来」文が書き留められている。「日本の将来は…質実、簡素、善良を愛する九州魂、熊本魂いかに…」五高健児たちへの国民を背負う思い、いや世界人としての覚悟だろうか。五高への期待と世界を視野に若者達に学を託す氏の思いを感じる。

明治27年10月転出、やがて帰化し小泉八雲となる。その後の活躍は周知のとおりである。

この碑近くに、かつて猫橋があった。「真夜中、猫橋で手をたたくと猫が鳴く」。時には遠い昔の不思議話も風景に色を添える。散歩のひとつきを満喫するに丁度良い明治の小道である。

キャンパス
ミュージアム
散策

絵・文
松永拓己
大学院教育学研究科
教授・芸術家

ラフカディオ・ハーン先生の碑

〒860-8555
熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
学内入場無料

交通機関

バスをご利用の場合
「熊本大学前バス停」下車徒歩1分

